

指標名：ESPフォーキャスト調査(2009年11月)

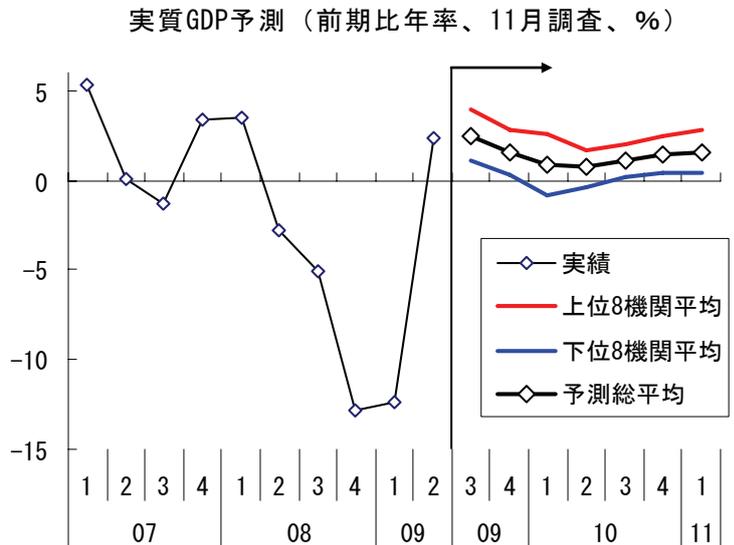
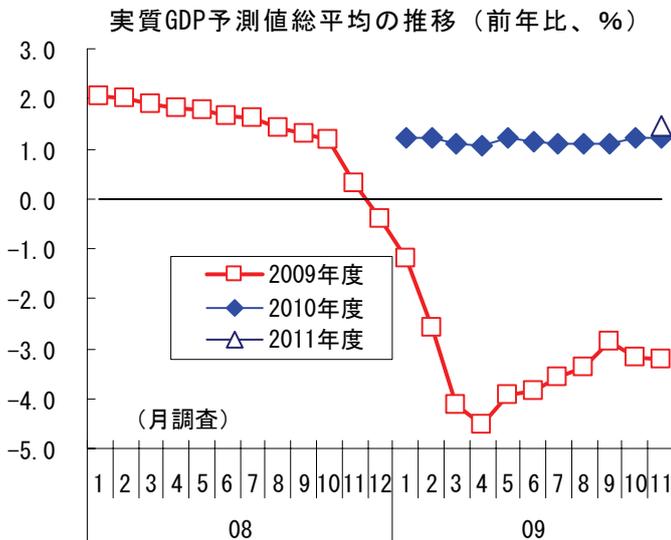
発表日：2009年11月12日(木)

～09年度見通しは10月調査時点とほぼ同じ～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 中本 泰輔

TEL：03-5221-4789



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

## ○ 09年度見通しが前年比▲3.20%と10月とほぼ同じ

本日、経済企画協会から11月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、41のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

実質GDP成長率予測は09年度が前年比▲3.20%と、10月（同▲3.19%）とほぼ同じであった。項目別にみると、公共投資については、建設総合統計において公共工事出来高の伸び率が鈍化したこと、09年度補正予算の公共事業削減額が徐々に明らかになってきたことなどから下方修正されたとみられるほか、政府消費や住宅投資も下方修正された。一方で個人消費や外需、設備投資などは上方修正されている。また、失業率についても、9月の労働力調査において2ヶ月連続で改善した影響で改善方向に修正されている。

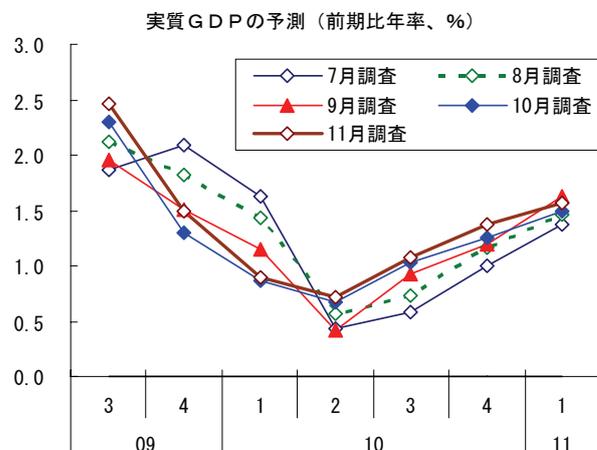
2010年度については前年比+1.21%（9月：同+1.22%）とほぼ変わらず、公共投資、住宅投資の下方修正と設備投資、外需の上方修正がちょうど相殺し合う形となった。10年度については、10年度の調査が始まった09年1月以降、+1.08%～+1.22%の極めて狭いレンジでコンセンサスが推移しており、09年度見通しが大きく修正されていることは対照的である。

なお、特別調査として行われた2011年度の実質GDP成長率予測は前年比+1.45%となり、11年度も緩やかな成長が続くとの見方がコンセンサスである。

## ○ 先行きは緩やかに減速

四半期ごとの推移をみると、09年7-9月期の成長率見通しが前期比年率+2.47%と2四半期連続で潜在成長率を上回る成長となる見通しであり、10月の同+2.30%からも上方修正された。高い成長率が予想されている背景としては、①海外景気の持ち直しや在庫調整の進展に伴って輸出の高い伸びが続いたこと、②経

济対策効果やマインドの改善を背景に個人消費が底堅く推移したこと、③大幅な落ち込みが続いていた設備投資が下げ止まったこと、④在庫削減の動きが一服したこと、などが考えられる。ただし、先行きについては、国内外における在庫調整の進捗に伴うリバウンドが一巡していくことや、経済対策効果が剥落していくことなどから、10年度前半にかけて伸び率が徐々に低下していくとの見方が多い（10-12月：同+1.50%、10年1-3月：同+0.89%、4-6月：同+0.71%）。



### ○ 消費者物価見通しも10月とほぼ同じ。11年度はプラス転化との見方も

消費者物価指数（コア）の予測値は、2009年度が前年比▲1.52%（10月：同▲1.52%）、2010年度は同▲0.92%（10月：同▲0.91%）と両年度とも前回結果とほぼ同じであり、特別調査として行われた2011年度については+0.09%とプラス転化すると見込まれている。四半期別にみると、10-12月期については前年比▲1.61%と石油製品価格のマイナス寄与縮小によって7-9月期の同▲2.3%から伸び率が縮小すると予想されている。もっとも、需給要因による物価下落圧力が今後も根強く残ることから、2010年度についてもCPIがマイナス圏で推移するとの見方がコンセンサスである。11年1-3月の段階でも高めの予想している8社の平均で▲0.09%となっており、特別調査でも示されている通り、消費者物価のプラス転化は11年度以降になるとの見方が多いようだ。

なお、2010年度から暫定税率の廃止や高速道路の一部無料化などの政策が実施されると見込まれることから、4-6月期（前年比▲1.15%）は1-3月期（同▲1.06%）からマイナス幅が拡大すると予想されている。

